

「みらい研」 第2回交流会を開催

新井・建設ディレクター協会理事長迎え

インフラ・建設みらい研究会（みらい研、会長＝陣内孝雄・元参院議員）は7月10日、第2回交流会を東京都内の同研究会内で開いた。ゲストスピーカーは、新井恭子・建設ディレクター協会理事長。現場とオフィスを結ぶ「新しい職域」を語った。

建設業界「新しい職域」語る

交流会では、陣内会長の挨拶の後、同研究会の

現況説明があつた。同研

究会は昨年暮れ、「建設

産業分野の政策課題の実

現を推進し、我が国の経

済成長と国土の持続的発

展に貢献する」ことを目

的に、政治団体として発

足。建設職域代表を支え

る強力な政治基盤の形成

を目指して活動してい

る。

会員数は、同日現在で

約2000人。地方建設

会社871人、ゼネコン

320人など。

続いて講演した新井理

事長の主な発言は、次の

通り。

▽建設業界が抱える問

題の1つは、現場とオフ

イスの分断による業務停

滞。それぞれが情報を共

有できない職域構造だ。

「ミドルオフィス」の誕生

▽具体的な業務は、工

事データ作成（施工体制

台帳、安全書類、写真管

理、施工計画書など）と

ICT（ドローン・レー

ザー測量、データ処理、

3次元設計補助、遠隔支

援）だ。

▽したがって、建設デ

イレクターは職域をつな

ぐ「ミドルオフィス」の

誕生と言える。フロント

▽また、施工管理技術

者1人に現場（安全・品

質・工程・原価、協力会

社調整、発注者協議）、

書類の全てが集中してい

るという問題もある。

▽これらの問題解決の

ため、建設ディレクター

という新しい職域を創出

した。書類、ICT分野

を専門的に担い、技術者

が現場に集中できる環境

をつくる役割だ。

である現場、バックオフ

イスの社内業務の中間に

位置し、両方の調整役と

なる。

▽協会による建設ディ

レクターの資格認定者

は、3644人。うち女

性が72%を占める。年齢

は、10～20歳代が44%。

建設関係の業務経験なし

が83%、異業種からの転

職46%だ。

▽こうした多様な人材
材確保と雇用創出につな
の流入が、建設業界の人
がっている。